

平成 15 年 1 月 日

淀川水系流域委員会 殿

奈良県宇陀郡榛原町大字萩原 164
榛原町長 前田 禎郎

新たな河川整備をめざして 淀川水系流域委員会
提言（案） の意見について

このことについて、淀川水系流域河川整備計画の策定についての委員会提言
について、別紙のとおり申しいたいので、宜しくお願い致します。

記

1. 意見書 別紙のとおり

意見書

1. 河川の水量・水質の向上について

淀川水系の最上流部の中山間地域で生活を営む者として、治水・利水面において「川が川を創る」という考えには疑問を持ちました。

全国の各地では、人工林を広葉樹の自然林に戻し、川は元より海の水質改善も達成されている例もあるように「川は山が創る」のではないかと思います。川の水の源である、山にも目を向けて考えていただければ、人間を含め生態系の自然のシステムはもっと健全に働くのではないのでしょうか。よって、手入れのされなくなった人工林に対して涵養林の育成の為の助成事業として、農林水産省や林野庁とも連携をとって一体となって考えることが望ましいと思われます。山が持つ保水能力によって、ダムや琵琶湖に流れる流量は安定化され、水質も向上されるものと思われます。

2. 洪水対策について

近年、局地的に短時間で集中豪雨が降り中山間地域の当町でも宅地開発が進み過去には無かった所で床上浸水がたびたび発生しております。しかし、これらの雨水も短時間でダムに流れ込みますが大和川水系で実施されているような貯留池が学校や公的施設の地下に設置されることとなれば、これらの被害も未然に防げ、ダム事務所と連携をとればダムに流れ込む雨水も調節が出来、水位操作も容易で安定した流量の放流ができるものと思われます。よって、淀川水系においても貯留池の国庫補助対象となるように検討していただければ効果的と思われます。

3. 上流地域の河川整備について

中山間地域での治水計画のあり方としては、下流地域で考えておられるような浸水しても被害が少ない地域と同様な想定は行いがたいと思われます。上流部の河川の堤防は、自然護岸の箇所が多く地形の形状に合わせて、蛇行しており、急峻な山が迫っています。また、河川の勾配も急であり併せて堤防の勾配も同様であります。この様な状態で越水が発生すると、道路や家屋の間を早い速度で水が流れ非常に危険な状況となり、山すそを侵食し、大規模な土砂崩れや、地すべりが発生することも予想され、甚大な被害が起こり下流域への影響は元より、復旧に要する費用は多額になることが想定されます。こうした事から治水計画の策定には、上流地域についても検討が必要であると思われます。